

# 2019 年度地域協働フィールドワーク 活動報告書



# 目次

- p.3 はじめに
- p.4 メンバー紹介
- 書籍班活動報告
- p.5 書籍プロジェクトについて
- p.6 【第一期】2018年度
- p.7 【第二期】2019年 4月～7月末
- p.8 【第三期】本訪問 8月10日～15日
- p.9 【第四期】本訪問後～書籍刊行
- 店舗班活動報告
- p.10 【第一期】4月～6月19日まで（第一回事前訪問後まで）
- p.11 【第二期】6月20日～8月9日（本訪問まで）
- p.13 【第三期】8月10日～8月15日（本訪問）
- p.17 北海学園大学十月祭活動報告
- p.18 おわりに
- p.19 付録：天売島勢資料

## はじめに

北海学園大学経済学部 of 学生を対象とした特別講義「地域インターンシップ」がこの活動の母体です。地域インターンシップは2016年度に私たちの先輩たちが天売島を訪れた際に始まりました。島民の方々と触れ合っていく中で離島独特の地域性や天売島が抱える問題を知り、自分たちが天売島に何をすることができるかを考えました。この時考え出されたものが、天売島での暮らしや仕事にまつわる歴史を次世代に伝えていくための書籍を作成すること、当時天売島に放置されていた空き店舗を再活用することでした。四年目となった現在もこれらの活動は引き継がれ、「空き店舗班」と「書籍班」がお互いに力を合わせて取り組んでいます。

2018年度には地域協働フィールドワークにとって大きな前進となる一年でした。空き店舗班はクラウドファンディングで調達した資金を用いて初の飲食店営業を実施し、二日間ではありましたが島民・観光客・学生の交流の場を創ることができました。書籍班は島民の方々へのインタビューをもとに天売島の歴史や文化、魅力をまとめ、一作目である「学生がみた 移り変わる天売島」を刊行しました。先輩たちが築き上げてきた繋がりや、これまで積み重ねてきた活動が実を結び、大きな達成感と感動を味わったことを覚えています。

2019年度は前年度の成果と反省を振り返り、より良い飲食店の営業や新たな書籍制作に取り組みました。それだけでなく、北海学園大学の大学祭への出店を行い、天売島の海産物を提供することで大学祭に訪れた一般の方や学生が天売島に興味を持ってくださるよう努めました。年度末は新型コロナウイルスの影響により活動が滞り、札幌市での広報活動や現地での報告会の中止を余儀なくされました。こうした影響の今後の見通しは悪く、次年度以降は活動を見直していく必要がありますが、天売島との繋がりはずっと続いていくことを願っております。

この報告書では今年度のメンバーが揃った4月から一年間の活動を報告させていただきます。最後にはなりますが、プロジェクトをご支援いただいたおらが島活性化会議様、天売島の島民の皆様、助成いただいたトヨタ財団様、地域協働フィールドワークに関わる北海学園大学経済学部、北海道エンブリッジ様に感謝申し上げます。

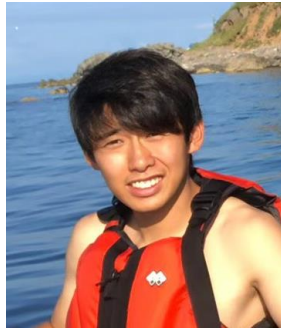
2019年度 北海学園大学地域協働フィールドワーク  
代表 経済学部経済学科3年  
市川雄二郎

# メンバー紹介

## 空き店舗班



渡部 凌 (3年)



七海 航大 (3年)



本間 志遠 (3年)



今野 皓太 (3年)

## 書籍班



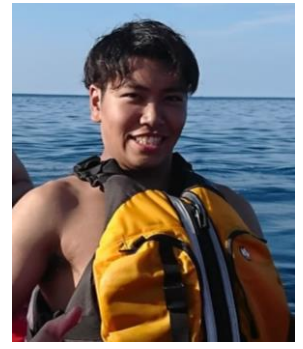
市川 雄二郎 (3年)



池田 恵梨 (4年)



山崎 翔太 (2年)



下出 海斗 (2年)



# 書籍班活動報告

## 【書籍制作プロジェクトについて】

北海道羽幌町の日本海に浮かぶ天売島。海産物や天売猫、オロロン鳥の繁殖地としても有名な場所である。夏の観光シーズンにはそれらを目的とした人々が多く集まる。

天売島について取り上げた web サイトは現在の情報が得やすい。天売島 Official site<sup>1</sup>では「ちいさな地球。」をキャッチコピーに、観光場所や宿泊場所が現代的なデザインのもと紹介されている。その一方で関連本の種類は少なく、天売島の自然観察ハンドブックや海鳥を取り上げたものがメインで、本で天売島の過去や歴史を知るには本の厚さが7 cm程の羽幌町史を読むしかなかった。とても若者にとって読みやすい本だとは言えない。

私たちは天売島と関わりを持つ中で天売島に関する本、つまり後世に残る手に取りやすい資料が少ないことにさみしさを感じていた。その想いを原点に、天売島の歴史や魅力を詰め込んだ書籍の作成を目指して生まれたのが当プロジェクトである。

島民の方々に聞き取り調査を行います。普段は聞くことのないお話を聞けるのも聞き取り調査の魅力です。



お祭りの成り立ちや意味など、天売島の歴史にも着目します。

書籍制作の写真資料を集めるため、島のいろいろな場所を巡ります。



<sup>1</sup> <https://www.teuri.jp/>

## 【第一期】2018 年度

3 年生 市川雄二郎

2018 年度の書籍班は 3 年生 1 名、2 年生 2 名であった。書籍制作プロジェクト自体は 2017 年度に枠組みが作られ、漁業をテーマとした聞き取り調査を計 4 回実施し、その他にも既存資料の読み取りを行った。しかし私を含む 2 年生 2 名は 2018 年度から活動に参加したため、まずは実際に天売島を訪れ、天売島を知ったうえで改めて書籍のテーマを決定する必要があると考えた。

2018 年 6 月 17～18 日の事前訪問にて天売島の巖島神社祭やウトウ帰巢ナイトガイドに参加し、天売島の様々な魅力に触れられたことをきっかけに、天売島を知らない若者に天売島を知ってもらえるような書籍を制作することになった。取り上げるテーマには 2017 年度に扱った「漁業」の他に「祭り」、「海鳥（観光）」、「教育」を加え、聞き取り調査を行った。8 月 7～13 日の本訪問とその後の追加取材を合わせて計 9 件の聞き取り調査を終え、書籍制作に取り組む。株式会社プロコム北海道様にデザインや印刷を依頼し、2019 年 2 月 28 日に「学生がみた 移り変わる天売島」を刊行した。

書籍の刊行は達成したが、書籍は羽幌フェリーターミナルや天売島観光案内所などに設置していただくことに留まった。書籍をどのように配布するかは次年度の課題となった。



天売小学校の教頭先生に聞き取り調査を行っている様子です。離島ならではの教育について伺いました。

「学生がみた 移り変わる天売島」それぞれの聞き取り調査の内容を対話形式で掲載しています。



## 【第二期】2019年4月～7月末（本訪問まで）

3年生 市川雄二郎

新メンバー獲得に向け説明会を行い、応募者の面接の結果7名の新メンバーを迎えた。そのうち池田恵梨、山崎翔太、下出海斗が書籍班に加わり、書籍班は4名で活動していくこととなった。

2018年度には2017年度の聞き取り調査の内容も含めた一作目の書籍を刊行できたため、今年度は新たなテーマを定めて自由に書籍制作に取り組めることが予想できた。しかしその一方で「移り変わる天売島」の配布など、事前に解決すべき課題もあった。

書籍の配布先として、まずは北海道内の図書館が挙げられた。郷土資料は後世に残りにくく、図書館への寄贈が呼びかけられていたこともあり、訪問した江別市情報図書館、北海道立図書館、札幌市中央図書館、札幌市図書・情報館が寄贈を快く受け入れてくださった。その他にも羽幌町の「はぼろ甘エビ祭り」に参加し、祭りを訪れた方に配布した。

6月17～19日の第一回事前訪問を終え、新たに制作する書籍のテーマは観光案内マップに決定した。天売島には既存の観光案内マップがあるが、それぞれのお店や観光名所などの魅力にしっかりと焦点を当てた書籍を制作し、観光客により天売島を楽しんでもらい、リピーターを増加させることが狙いである。

方針が決まると、聞き取り先にアポイントを取って本訪問に備えた。



2019年6月23日

はぼろ甘エビ祭りに参加しました。  
祭りを訪れた方に書籍を配布しています。



ミーティングの様子。  
学生が話し合った内容を教員に提案し、活動方針を協議します。



## 【第三期】本訪問 8月10日～15日

3年生 市川雄二郎

本訪問中は聞き取り調査を進めながら、その他の時間を空き店舗班の活動に使った。2018年度は初の店舗営業のため、準備やお店を回すことに人手を使ってしまい、聞き取り調査のほとんど(7件中6件)を単独で行っていた。その反省を踏まえて今年度は必ず2人以上の学生が聞き取り調査に臨めるよう空き店舗班とも調整を行い、それを実現させた。また2018年度には日程の調整ができず、諦めざるを得なかった聞き取り調査もあったが、今年度は希望していた8件の聞き取り調査全てを実施できた。学生自身も書籍を作らなければいけないという義務感以上に、天売島のことをもっと知りたいという想いが強かったため、学生一人ひとりにとってもこの成果は非常に大きい。



聞き取り調査の様子。  
天売島の飲食店や民宿、観光名所などの魅力、さらには天売島への想いをお話ししてくれました。

聞き取り調査にご協力して下さった皆様、本当にありがとうございました。





## 【第四期】本訪問後～書籍刊行

3年生 市川雄二郎

本訪問を終え、各自担当箇所の編集作業に移行した。北海学園大学の大学祭への出店などと同時進行で取り組んだが、予定通りに作業が進まなかった。プロジェクトとしては二度目の書籍制作だが、今年度から参加した学生にとっては当然初めての経験である。作業の行き詰まりを考慮した適切なサポートが出来なかったことが私自身の反省点だ。その後新型コロナウイルスの感染拡大に伴って対面のミーティングが不可能になったこともあり、作業が停滞してしまった。

一度は中断された書籍制作だったが、教員や聞き取り先のご協力の下、各々が責任をもって作業を全うし、2020年8月17日に「学生の天売島観光ガイド てうりたび」が刊行された。今もなお新型コロナウイルスの影響により観光客を受け入れにくい状況が続いているが、再び観光客が訪れられるようになった際には、是非手に取っていただきたい。

The image shows the cover of a book titled "天売島プロジェクトとは？" (What is the Teuri Island Project?) and "学生の天売島観光ガイド てうりたび" (Student's Teuri Island Tourism Guide Teuri Tabi). The cover features a scenic view of Teuri Island with a sea stack and a lighthouse. The text on the cover includes the title, subtitle "学生の天売島観光ガイド", and the main title "てうりたび" in large characters. Below the title, it says "TEURI ISLAND". The cover also includes a small logo of a bird and the text "発行: 北海学園大学経済学部地域協働推進協議会".

**天売島プロジェクトとは？**  
What is the Teuri Island Project?

天売島プロジェクトは、北海学園大学経済学部の実践型授業「地域協働フィールドワーク」で天売島の地域活性化活動に取り組む学生団体です。私たちの活動を少しだけ紹介します。

◆「てん」のオープン

私たちは島民と観光客、学生の交流の場を開設し、「てん」と名付けました。「てん」はフェリーターミナル付近の空き店舗を活用したもので、私たちが天売島にいない期間も島民や外部の方に利用されています。これまで島の学生の音楽ライブや、札幌のシェフによるイタリアンバーなどに利用していただきました。私たちが滞在期間に、海産物や島では食べられないスイーツを提供する飲食店を営業しています。

「てん」についてはコチラから!▼  
@teurigakuen teuri\_project  
<https://fb.com/hgueconlocalinternships>

本書は公益財団法人・トヨタ財団の「2018年度国内助成プログラム」による助成を受けて刊行されたものです。  
【編集】市川雄二郎・池田恵梨・山崎翔太・下出海斗(北海学園大学経済学部生)  
【発行】2020年6月 / 北海学園大学経済学部地域協働推進協議会  
【協力】天売島おらが島活性化会議、北海道エンブリッジ 【デザイン】プロコム北海道  
【お問い合わせ】北海学園大学経済学部地域協働推進協議会(担当:水野谷武志)  
〒062-8605 北海道札幌市豊平区旭町4-1-40 tel.011-841-1161

発行: 北海学園大学経済学部地域協働推進協議会

「学生の天売島観光ガイド てうりたび」刊行

# 空き店舗班活動報告

【第一期】4月～6月19日まで（第一回事前訪問後まで）

3年生 今野皓太

4月25日に先生方や天売島の方々と地域協働フィールドワークに向けた打ち合わせを行った。今年度は地域協働フィールドワークの活動がトヨタ財団の「しらべる助成」に採択され、補助金をいただけることとなった。他地域の先進事例の視察を考え、学生主体で、島で、空き店舗の活用をしていた「香川大学直島地域活性化プロジェクト」という活動団体に5月11日～13日に学生2名、教員1名、天売島民の方1名の計4名で訪問させていただき、学生主体でどのようにして長く続けているのか、空き店舗の運営、収益、町との関係などを視察した。

6月6日は天売島への事前訪問にあたり、旅程と今年度の活動方針も踏まえた話し合いを行った。ここで本渡航の際に空き店舗で行うお店のコンセプトや、営業の仕方、店舗の内装、メニューなどについての考えを発表した。また、団体名や空き店舗の店名なども提案したが、商標登録などの問題もあり決定は持ち越しとなった。他にも、ユニフォームや名刺などの作成の案や、プロジェクトのロゴも決めるなどといった多くの課題・問題について話し合いを行った。

6月17日～19日に今年度初となる第一回事前訪問を実施した。事前訪問は今年度から参加するメンバーにとっては初めての訪問である。今回の渡航では厳島神社祭に参加した。今年度はどのようなメンバーで、何を行うかといった活動内容を島民の方々に知っていただくことが目的となり、お神輿担ぎなどを通じて島民の方々と交流することがメインとなった。島民の方々とのお交流はお神輿担ぎやお祭りの懇親会など島民の方々と一緒になる機会に恵まれ、多くの交流を行うことができたと感じている。そのほかにもウトウツアーの参加や、店舗の現状なども実際に目で見て把握し、天売島の魅力や今後取り組むべき課題を知ることができ、とても意義のある事前訪問となった。



香川大学直島プロジェクトを訪問



厳島神社祭



店舗の現状を実際に確認

## 【第二期】6月20日～8月9日（本訪問まで）

3年生 本間志遠

事前訪問が終了し、すべきことが明確化された。インテリアやレイアウトの確定、看板・インテリアの作成、装飾やメニュー決めである。さらに私たちが天売島に滞在していない期間は空き店舗のレンタルを検討していたため、その際の利用規約の作成が必要だった。

レイアウト、インテリアの担当は今野、山澤に決定した。意見としては、蛍光灯では味気がないのでは、椅子は間伐材で作成、会議用テーブルはテーブルクロスをかけて使用するという意見があった。メニュー作成の担当が七海、本間に決定した。主な内容は食器購入、価格、仕入先、提供方法の選定、必要な物品の確認である。島民の方からはお酒やおつまみ、スイーツの要望があり、まだまだ改善の余地があった。さらに、レンタルの際の利用規約については渡部が担当となった。時間制での料金設定を検討した。

店舗を貸してくださっている川口さんとも詳しく打ち合わせが出来ておらず、また島に行かないとできない作業が殆どなので、7月の3連休を利用して予備訪問を行った。その際に天売島でウニ祭りが行われており、旅館に宿泊する観光客が多かったため、旅館の手伝いをした。さらに看板作成やインテリアの作成、装飾などの作業を全て終わらせた。これにより本訪問時には余裕を持てるようになった。向かって左側の店舗にはトドマツとハンノキのチップを敷いた。

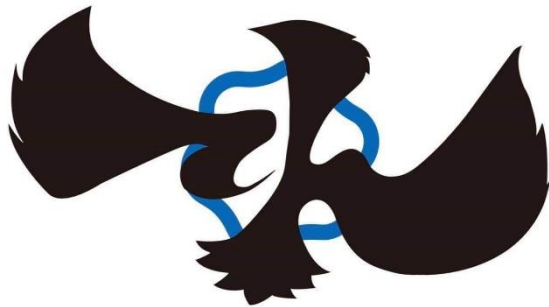
店舗班の事前訪問から帰ってきた後は、ロゴは渡部の案に決定、それに伴いTシャツを作成した。ロゴマークはプロジェクトと店舗の看板どちらにも利用した。Tシャツ作成の担当は七海になった。色は目を引く「デイジー」に決定。さらにメニュー数が多いため、手間のかかる料理、味の種類などを減らすなどメニューの再確認を行なった。食材や食器、容器についてはメンバーで分担し問題なく揃えることができた。サワーの原液以外の飲料類は川口商店で購入することになった。店舗に来客してくれた方に書いてもらうアンケートを作成した。アンケートは飲食物提供の際に記入してもらい、観光客の実態や島民の方の反応、イベントの評価などを明らかにし、今後の活動に活かしていく。売り上げ目標としては、三日間営業なので単純に昨年度の1.5倍を考えている。準備不足を痛感した昨年度よりも、本訪問に向けて入念に準備できた。





空き店舗班は7月に予備訪問へ。  
間伐材を利用して看板を作りました。

店舗名を「てん」に決定。  
ロゴマークも作成しました。



デイジーカラーのTシャツを  
作成しました。  
道行く人の目に留まりやす  
いだけでなく、チームとして  
の一体感も増しました。

## 【第三期】 8月10日～8月15日（本訪問）

本訪問1日目・2日目「営業に向けた準備と営業初日」

3年 今野皓太

訪問予定日だった8月9日は天候に恵まれず、一日遅らせての訪問になった。店舗班5名、書籍班4名と教員2名を加え計11名での訪問となった。15時ごろに天売島に到着し、島民の方々へのあいさつ回りや店舗の壁紙の貼り付け、壁床の清掃などの作業と翌日の営業に向け、テーブルと椅子、使うお皿やコップなどの配置を確定して共有し、スムーズに動けるように工夫した。宿に戻ってからは大まかな自分の役割や会計から提供までの流れを確認したりなど営業に向けてミーティングを行った。

本訪問2日目（8月11日）は少し早く店舗に向かい商品の作り方と提供の仕方を確認した。嬉しいことに営業前から来てくれるお客様もいらっしゃった。多くのお客様に来てもらうため、民家やフェリーターミナルでチラシ配りなどの広報活動も行った。今年からプロジェクトに参加した学生がほとんどで慣れない作業やイレギュラーな事態、コミュニケーションがうまく取れず失敗もあったが何とかやり切れた。しかし、営業するということが精一杯になってしまい、私たちが目指している島民、観光客、学生の交流がなかなかできなかったことや、アンケート用紙を渡せていなかったこと、商品の提供の仕方など、翌日以降の営業に当たり改善しなければならない課題も見つかった。



外から見た「てん」の様子。  
事前の告知も相まって、営業前から来て下さる方もいました。

「てん」の内装（向かって左側）。  
レイアウトが改善され、複数組のお客様にも対応できるようになりました。



## 本訪問3日目・4日目「営業本番」

3年生 本間志遠

2日目も店舗営業をした。1日目の反省を活かし、午前から船が到着する時間に港に立ち、ビラ配りを行った。しかし、2日目は天候に恵まれず、集客が少なかった。川口商店さんのご厚意で、無償でタコバジルと砂肝のから揚げを新たな提供メニューとしていただいた。少しトラブルにも見舞われたが、無事に2日目の営業を終了した。2日目の反省点としては

- ・各グループでの連携ミスがあった
- ・ホールの人が少ない
- ・役割をはっきりさせていない

などが挙げられた。これらを改善していく。さらに全体に報告ができていなく、最後まで商品の渡し忘れを知らない人がいた。翌日はハウレンソウとコミュニケーションを大事にする。

3日目は天候に恵まれた。島の方はお盆に家でBBQしていたのにも関わらず、店舗に顔を出してくれた。最終日ということもあって賑やかだった。学生全員が島民と交流し、最後は花火もした。

この活動を通して学んだことは多くの人たちに支えられて成り立っているということである。私たち学生が主体となって行っている活動だが、学生だけでできることは限られている。島民や教員、様々な人に私たちが支えられていることを再認識した。時代が変わっていく中で自分たちが天売島のために何ができるのか考え直さなければならない。



フェリーターミナル付近で  
チラシ配りを行いました。

2日目はあいにくの雨。  
屋外のテーブルの配置を  
変えて対応しました。

雨にも関わらず多くの方  
が足を運んでくださいま  
した。





## 本訪問5日目・最終日

### 「天売島の良さを再実感、片付けと挨拶回り」

3年生 七海 航大

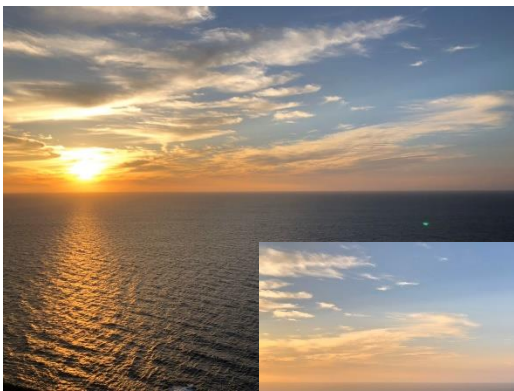
3日間の営業を終えた5日目は、連日睡眠時間を確保できていなかったこともあり午後からの活動となった。店舗営業中のミーティングを速やかに終わらせることや片付けの効率を上げていくことはこれからの課題である。午後からの活動としては、店舗班が主に店舗の片付けを行い、書籍班が挨拶回りを行った。店舗を片づけていく中でいろいろなものをいろいろな方からご協力いただいていたことを再確認した。また営業前からお世話になった方や営業中に足を運んで頂いた方に支えられて店舗営業が行われていた事も改めて感じた。店舗の片づけを行った後に、斎藤暢さんと平野健司さんが教員を含めた全員にシーカヤックを体験させてくださった。透き通った海や海から見た天売島はとても綺麗で魅力を再実感することができた。何度か天売島に行く機会があったが実際にアクティビティなどを行うことがなかったためとてもいい経験となった。その後、展望台に夕日を見に行くことになり、時間が限られた中でとてもきれいな景色を見ることができた。夜には店舗営業で売り残ってしまったものや頂いた海鮮をバーベキューで食べた。しかし、店舗で売り残ってしまったものが多かったのもこれからの課題となった。この日経験したことは天売島の良さの一部でありそれを再実感するとともに私たちが発信をしていき魅力を島外の方に伝えていかなければならないと感じた。

最終日、店舗班は店舗の最終片づけ、書籍班は今回私たちが泊まらせていただいた家の片づけを行った。その後残っていた挨拶回りを済ませ店舗に戻り、無事にフェリーに乗りこんだ。フェリー出発前にはこれまで協力してくださった方や店舗に来てくださった方がお見送りをしてくれてとても感動した。羽幌町に到着し、羽幌役場に挨拶に向かった。そこでは天売島での活動報告とこれからの活動予定を話した。

今回の訪問では店舗を営業していくことの大変さやどれだけの方がこの活動に協力していただいているかを再確認した。店舗営業では「交流」を通して人と人の繋がり大切さを学ぶことができた。この経験を通じて、これからどのようにして地域活性化という大きな目標を実現していくか考えていこうと思う。



シーカヤックで普段見ることのできない海からの景色を見ることができました。



雲が少しかかっていましたが夕日も見ることができました。



天売島の皆様には感謝のお言葉しかありません。

# 北海学園大学十月祭活動報告

3年生 七海航大

10月12～14日の3日間にかけて行われた北海学園大学の大学祭（十月祭）への出店を地域協働フィールドワークとして初めて出店した。学生や若い世代は天売を知らない方が多く、その世代に対して情報発信することが狙いだ。「移り変わる天売島」も配布し、お客様一人ひとりと会話して天売島の魅力をお伝えする。またプロジェクトに興味を持ってくれた学生を次年度の新メンバーとして迎えたいという思いもあったため、プロジェクトのパンフレットも設置した。

店舗では、タコ串とエビ汁を販売してたくさんのお客様や地域周辺の住民の方に食べていただくことができた。その中にはやはり天売島を知らない学生が多く、天売島についての魅力などを伝えると「面白そう」や「行ってみたいなあ」などという声が聞けてとても有意義な店舗出店になったのではないかと考える。3日間の営業を通して学生と交流したことで「天売島」や「地域協働フィールドワーク」の認知度が上がり、手ごたえを感じた。さらにエビ汁が約40店舗ある飲食系の出店の中から選ばれる「学園フードグランプリ」で準グランプリ獲得した。初めての出店を私たち自身も楽しみながら取り組めた成果だろう。



多くの方と交流でき、天売島プロジェクトに興味を持っていただけました。



学園フードグランプリで準グランプリを受賞しました。



## おわりに

今年度で4年目となった本活動ですが、正直なところ、4月の時点では多少の行き詰まりを感じていました。というのも、昨年度の飲食交流イベントが有難いことに大盛況であっただけに、店舗でなにかをしなければいけないという固定観念にとらわれてしまっていました。トヨタ財団の助成金での直島等の訪問でより一層その観念が深まってしまったこともありましたが、しかし、今年度の活動を見てみると、例年に比べ、天売島への訪問回数や日数も特に変わらないものの、天売島外での活動が増加していました。例えば、羽幌町の甘エビまつりや北広島市の酒まつりなどでの広報活動や、本校の十月祭での海鮮グルメでのPRなどを行いました。また店舗も、レンタルスペースとして活用する運びとなり、学生が直接訪問しなかったとしても、居場所を創出し、ステークホルダーの創出が可能であるということに気づかされ、まだまだできること、やるべきことはたくさんあると感じました。

私たちはまだまだ天売島について知らないことは多く、島民の皆様、観光客の方々のニーズもしっかりとは把握しきれていない現状です。しかし、まだまだ眠っている資源、様々な可能性を秘めており、魅力のあふれる島だと感じています。今年度の活動のように、島の魅力をより多くの人々に伝えていくと同時に、島の方々と共に、様々な活動を通して天売島のさらなる魅力の発見、ニーズの把握をしたうえで、私たちが何をしていくべきなのか改めて考えることが必要だと思えます。独りよがりの活動ではなく、島民の方々と共に考え活動していく。来年度以降もこの気持ちをもって、今年度の反省も生かし、しっかりと活動を継続していけるよう尽力したい所存です。

最後になりますが、本活動のメンバーの任期は基本2年という短いサイクルで入れ替わりが激しく、1年に数回のみ訪問といった形ではありますが、島民の皆様、関係者の皆様の、変わらないばかりか、より暖かさを増していると感じますご厚意には、感謝の気持ちでいっぱいです。来年度以降もメンバーは変り、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、取り組みに対する情熱はしっかりと持っていると思えますので、今後ともお力添えをいただければ幸いです。

2019年度 北海学園大学地域協働フィールドワーク  
経済学部地域経済学科3年  
渡部凌

## 付録：天売島勢資料

羽幌町公式ホームページの<sup>2</sup>町勢要覧資料編より、天売島の資料をまとめました。

### 人口の推移

	世帯数	男	女	合計
大正9	353	950	892	1842
昭和22	330	1036	1015	2051
25	355	1123	1137	2260
30	341	1065	1089	2154
35	328	855	888	1743
40	312	729	783	1512
47	268	499	531	1030
50	268	424	468	892
55	282	422	401	823
60	269	352	338	690
平成2	244	316	291	607
7	234	275	255	530
12	219	240	236	476
17	194	197	201	398
22	172	186	180	366
27	159	163	150	313

### 宿泊施設数と収容人数

宿泊施設	旅館	収容人員	民宿	収容人員	ゲストハウス	収容人員	軒数計	収容人員計
平成14	13	590	6	145	0	0	19	735
15	12	560	5	110	0	0	17	670
16	12	515	3	70	0	0	15	585
17	12	515	3	70	0	0	15	585
18	12	515	3	70	0	0	15	585
19	データなし							
20	8	380	4	90	0	0	12	470
21	8	425	6	135	0	0	14	560
22	6	335	6	135	0	0	12	470
23	6	333	6	135	0	0	12	468
24	5	293	6	135	0	0	11	428
25	5	293	6	135	0	0	11	428
26	5	293	6	135	0	0	11	428
27	5	293	6	135	0	0	11	428
28	5	288	6	125	0	0	11	413
29	5	246	6	107	0	0	11	353
30	5	246	5	85	1	14	11	345
31	5	223	3	55	1	14	9	292

<sup>2</sup><https://www.town.haboro.lg.jp/gyousei/shiryu-toukei/chosei-youran/>

## 小学校児童及び中学校・高校生徒数

	小学校			中学校			高校		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成12	11	9	20	16	4	20	8	4	12
13	8	8	16	14	5	19	7	4	11
14	7	8	15	8	4	12	5	5	10
15	5	9	14	5	4	9	7	3	10
16	5	11	16	4	3	7	5	3	8
17	6	6	12	5	5	10	4	1	5
18	6	5	11	3	5	8	2	1	3
19	5	6	11	3	4	7	3	0	3
20	6	6	12	1	1	2	4	2	6
21	8	5	13	3	2	5	3	3	6
22	9	5	14	3	3	6	3	3	6
23	5	5	10	5	4	9	5	4	9
24	7	6	13	4	3	7	4	3	7
25	5	4	9	3	3	6	3	3	6
26	7	5	12	0	2	2	5	3	8
27	6	2	8	2	1	3	3	1	4
28	9	0	9	5	2	7	3	2	5
29	10	0	10	5	2	7	5	2	7
30	7	0	7	2	2	4	2	2	4

## 観光客入込数（天売・焼尻）

年度 \ 月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	前年比(%)
平成8							33,282	89.7
9							31,077	93.4
10							30,596	98.5
11							28,408	92.8
12							28,575	100.6
13							27,974	97.9
14							27,009	96.6
15							26,206	97.0
16							24,890	95.0
17							21,946	88.2
18							20,245	92.2
19	710	1,803	3,297	6,171	6,166	1,498	19,645	97.0
20	700	1,646	3,403	4,819	5,512	1,493	17,573	89.5
21	603	1,281	2,594	4,237	5,298	1,799	15,812	90.0
22	554	1,674	2,571	4,174	4,588	1,560	15,121	95.6
23	592	1,485	2,323	4,840	4,824	1,256	15,320	101.3
24	660	1,476	2,450	4,712	4,484	1,558	15,340	100.1
25	592	1,442	2,981	4,938	4,521	1,382	15,856	103.4
26	574	1,461	3,325	4,512	4,723	1,559	16,154	101.9
27	618	1,585	2,903	4,194	5,110	1,767	16,177	100.1
28	508	1,492	2,588	4,428	4,871	1,817	15,704	97.1
29	599	1,633	2,859	4,462	4,971	1,549	16,073	102.3